童

2011.7、1

梅雨の雨とともに、緑が更に深まり、大地はだんだん木漏れ日の中で薄暗い感じになってきています。特に、朝夕の緑と空気はとてもさわやかです。また、スロープや土手の草もどんどん伸びて、１番躍動感のある季節です。１ヶ月に１回の草刈りが２週間に一度になり、この草刈り後の美しさも格別です。

この草刈りですが、１度やったらやめられない魅力があります。とても創造的な作業で、刈る前と刈った後の違い、美しさを鮮明に実感することができるからです。薪割りなどと同感です。そして、子ども達にも、刈り取り後の変化、その過程、美しさ、そして、労働作業、自然管理の姿などを、働くということ、やその意義や自然管理などを伝えたいと思っています。農作業や畑や花壇などで働く大人の姿をできるだけ身近で自然な形で示し、その一端でも子ども達の心に残っていく環境が大地にはあり、お仕着せでない環境設定こそが、シュタイナー教育の神髄だと考え、子ども達と楽しんでいきたいと思っています。まだまだ、雨と雑草と草取りで戯れる季節が続きそうです

【子どもと共に】

先週末に、夫婦で北海道へ久しぶりに行ってきました。次男のテニスの試合の応援を兼ねて出掛けたのですが。当初、その大会の規模と価値がわからず、どうしようか迷っていましたが、周囲からテニスの甲子園だと言われて、それは行くしかないと決めました。各県代表の強豪ですから、出場することに意義があり、こちらも応援を兼ねて、子どもをダシにして北海道観光をもくろんでいました。

子どもに大きな期待を持つ、試合をするのは本人であり、その成績や結果を一体となって、親が感情をあらわにするのは、我が家のスタイルではありません。子どものおかげで、こんな環境、場にいられ、こんな気持ちや応援ができることに感謝であり、それだけで幸せであるからです。まさに、子どものために出掛けるのではなく、子どもの共に、夫婦で出掛ける、楽しむといった感じでしょうか。子どもがいるからこそ、夫婦でこんな楽しい人生のドラマが展開できることを考えると、大感謝ですと言うことが基本にあるので、すべて子どもが巻き起こす良いことまずいこと、トラブルも、全て自然に受け入れる事ができるようになります。

末っ子の中２の野球少年とも、相変わらず新聞配りを終えたあと、小学校のグランドで共に朝練をまだ継続中です。かれこれ、ランニング時代を含め５年近く、朝、子どもと過ごしているでしょうか。これも、子どものために付き合っているのでなく、子どものおかげで早朝の楽しみを自分の人生に反映させてもらっています。子どもをダシにして、自分たちの人生を豊かに楽しんでいます。こんな時期チャンスは今しかないですから。

早朝の高速バスで新宿へ行き、羽田空港へ電車で。久しぶりの空港、飛行機は、、特に妻は万感の思いがあり、私も目前の客室乗務員が昔の妻の姿とだぶり、時・人生の流れを感じました。飛行機内では、私はずっと眠っていましたが、妻は窓の外をずっと眺めていました。千歳空港でレンタカーを借り、そのまま登別温泉へ。素敵な宿で温泉に入り、夜は偶然に地元のお祭りに遭遇して、鬼火や踊り、花火を堪能してすっかり観光気分。今回の目的を忘れがち。翌朝、この地でも４時に起きて、山奥の神秘的な噴火口や湖を探索してあまりのすばらしさに、宿へ帰り、妻を起こして、再び朝の誰もいない神聖な空気を吸いに出掛けました。

１０時過ぎに江別（札幌近く）の予選リーグ会場へ。その車中でもすっかり観光気分で、明日の日曜日はどこへ行こうか（明日は決勝リーグだが、予選突破など夢だから、当初から期待していない親）などと盛り上がっていました。会場は北海道ならではのとても広大ですばらしい場所。こんな素敵な場所で、こんな規模と雰囲気で出場できるなんて幸せだし、親もこんな所で観戦できるなんて幸せです。同じペアの関係者や顔なじみのライバルの関係者など、この北海道で共に応援できるなんて幸せですねと言いながら、子ども達を見ると、さすが全国トップレベル。パンフレットにある戦績も皆全国レベルの大会での入賞者達。我が家の子どもは、２１世紀枠という推薦枠出場。推薦基準に夢と希望を与える選手というものがあり、たぶん最初はへたくそでも、好きでやればそこそこになれるというモデルケースか。次男は、勉強は嫌いですが、そんなことはどうでもよく　性格はすばらしく、親もこんないい奴はいないと思っている。

あたって砕けろ、最後の夏。期待と失うものは何もない。とにかく思い切り楽しんでやっくれという思いで静かに応援。テニスは紳士的なので静かに応援しなければならない。あれよあれよという間になんと初戦突破。躍動感あふれる動きや声、そしてひたむきな姿に感動と感謝。３年間の努力のご褒美か。これで十分親は満足でいっぱいであった。２回戦の相手はもちろん、全国の名の知れた強豪。親はそれだけでひるんでしまう小心者。この試合も絶好調で、もしや番狂わせがあるかもなどと思っているうちに、勝利。親は予想外の結果に大興奮していたが、子ども達はなだれ落ちる汗をふきながらクールな状態。監督の先生は「勢いとは恐ろしいですね」とうれしさを噛みしめている。

ひょっとすると、明日の決勝リーグ出場ということ。明日の観光は無理と言うことに気づくまで少々時間がかかりました。子どもの前で興奮して大騒ぎする私たちでないので（そんなことをすると次男からひんしゅくを買う）、冷静に喜びを噛みしめて「ナイスゲーム」と声をかけ、心の中で「こんな感動をありがとう、感謝」と叫んでいる。

この夜は、札幌一の繁華街「すすきの」のホテルへ。ホテルは偶然、子どものホテルとほとんど隣り合わせ。この夜は、もちろんサッポロビールで祝杯をあげるところだが、私たちは水で乾杯。さすがすすきのだけあり、怪しげなお店やネオンとどう見ても不釣り合いなカップルに混ざり、私たち健全な夫婦は、「本当に子どものおかげ、子どもに感謝」と何度も叫びながら、「勝利おめでとう」と１度も叫ぶことなく、「雄河　ありがとう」と何度も叫んでいるのであった。

翌日の決勝リーグの会場は、さすがにすばらしい室内スタジアム。ここにいるだけでもすばらしい、感謝。小学生のジュニアチームなどを含め、たくさんの人たちが観戦する中、第一試合。延長延長の連続で、惜敗。でも、そのさわやかさといさぎの良さに、更に感動したゲームであった。昨日の会場に比べて観客席など設備が良い分、選手は遠い場所にいるような感覚になり、我が子が手の届かないすごい場所に行っているような錯覚を覚え、一抹の寂しさも感じた。子どもは、決勝まで観戦し、もう１泊してご褒美に観光して、翌月曜日に帰る予定。

私たちは、レンタカーをとばし、飛行場へ行き、大地へ帰って来たのは、深夜を過ぎていた。帰りの道中では、行きの観光気分は全く忘れ、「子どもに感謝　感謝」の連続であった。折から、前日土曜日２５日は、末っ子の誕生日。子どもの誕生日に北海道へ行くのは後ろめたいという気持ちであったが、さすが妻はすばらしい。この日にメッセージカード（はがき）が郵送で届くように、木曜日に残りの家族で書くことにした。海外の長男と長女には、メールで書いて送るように連絡すると、深夜２時頃に２人からメッセージが届いた。テニスの次男は直筆で書いていた。家族兄弟がすぐに思いを察して準備できることに感謝感激した。

そこに、次男「最後まで努力すれば、必ず報われる」とメッセージが末っ子に宛てて書かれていた。大本命といわれたインターハイ出場を数日前に逃した次男はその悔しさをおくびとも出さなかった。それだけに、神様が努力を、最後に 見届けてくれたのだろうか。そして、家族兄弟は　皆大喜びして感動の渦が広がっていた。こんな、ドラマは子どもがいるからこそ、それぞれの人生が彩り鮮やかになる。まさに「子どものために生きる」のではなく、「子どものおかげ」 更に「子どもと共に生きる」それが夫婦の彩り人生となると実感した。

次男は帰ってきた翌朝も朝１番の電車で６時には出掛けた。今度は、国体を目指すために。国体は山口。今度は、福岡からレンタカーで山口観光か。密かに期待と観光をもくろむ青山家である。